

# 中国における日本イメージ及びその構造モデルに関する検討

—2012年中国全国調査の結果に基づく考察

A Structural Model for the Images of Japan in China - An Analysis Based on Surveys  
Conducted in China 2012

江 暉<sup>1</sup> JIANG HUI

## 目次

- 1 はじめに
  - 1.1 先行研究のレビューと問題点
  - 1.2 本研究のフレームワーク
  - 1.3 調査実施の詳細
- 2 日本国イメージの構造モデル
  - 2.1 日本国に対するイメージの実態
  - 2.2 日本国イメージの構造モデルの構築
- 3 日本人イメージの構造モデル
  - 3.1 日本人に対するイメージの実態
  - 3.2 日本人イメージの構造モデルの構築
  - 3.3 日本国イメージと日本人イメージの諸要素の関連性
- 4 日本イメージの形成に影響を与える意識面の要素
  - 4.1 日中間の重大事件及び日中関係が日本イメージに与える影響
  - 4.2 中国人の自己評価が日本イメージに与える影響
- 5 まとめと今後の課題

---

<sup>1</sup> 学際情報学府博士課程 Doctoral Course, Graduate School of Interdisciplinary Information Studies, the University of Tokyo

## 1. はじめに

近年、「反日」デモを繰り返し、その中一部暴徒化した中国人の姿が日本のメディアに大きく取り上げられ、中国人が「反日」であるという見方は日本社会に定着していく傾向がみられる。無論、「反日」という言葉の意味についてはまだ推敲する余地があると思われるが、日本に対して中国人が抱いている憎しみという感情は日本社会に注目されている。これを背景に、数多くの世論調査が実施されている。たとえばそのうち、2005年から日本の認定特定非営利活動法人「言論 NPO」と中国メディアが年に一回共同実施する日中世論調査が一定の影響を持っている。その調査結果によると、中国人の日本に対する好感度が7年の間に低い水準に止まっており、ここ数年更に低下していく傾向があるという（言論 NPO, 2005-2012；工藤, 2008）。しかし、中国人の日本に対する思いは「好感度」という測定尺度のみで説明しきれない部分があり、したがって、このような世論調査の結果に基づいて中国人の日本観またその背後にある社会背景を理解すると、短絡的な解釈が導かれる恐れがあると思われる。それゆえ、現代中国人は「日本」に対して一体どのような考えを持っているのか、その実態を明らかにするために、学術的視点から考察を行う必要があると考える。

### 1.1 先行研究のレビューと問題点

外国イメージ研究は社会心理学の分野において長年にわたり扱われてきた課題であるにもかかわらず、中国人が抱く日本イメージが実証的な研究に基づいて体系的に考察されていると言いきれない。本節ではこの分野の先行研究の成果及びその問題点を説明する。

まず、イメージの定義が明確されていないことがあげられる。現在関心度や好感度、知識度など多数の尺度がそれぞれに用いられており、これらの尺度の間にある関連性、あるいはイメージ全体の構造における位置づけが明らかにされていない。例えば、石井（2008）は4つの調査結果<sup>2</sup>に基づいて、中国人の日本に対する好感度と「反日意識」（「私は日本人が嫌いである」という質問で測定された）について考察を行った。しかし、「好感度」と「反日意識」この二つの尺度で中国人の日本イメージを説明するのは不十分であるように思われる。また調査実施地として、直轄市の北京と上海、それに省行政単位の省都である広州市（広東省）や瀋陽市（遼寧省）、西安市（陝西省）、成都市（四川省）は全て政治・経済が比較的発展している大都市であり、サンプルが一般性に欠けると思われる。

それに対して、1999年 NHK 放送文化研究所と日本、韓国、中国の大学研究者の共同企画

---

<sup>2</sup> 「上海調査 2004」：2004年9月上海で18-60歳の男女各400人を対象に実施した。「中国オムニバス調査 2004」：日本リサーチが2004年9-10月に中国の北京、上海、広州、瀋陽、西安、成都の6都市で15-59歳の男女合計4000人を対象に実施した。「上海調査 2005」：2005年7月に上海で15-64歳の男女合計800人を対象に実施した。「北京調査 2006」：2006年1月に北京で15-64歳の男女合計600人を対象に実施した。

で実施された「日本・韓国・中国世論調査」は中国人 2066 名を対象に、日本に対する知識や関心度、イメージ、好感度、両国関係に対する認知を尋ねた（原・塩田，2000；鮑戸・原，2000）。イメージを測定するには、国についての 11 個、人についての 22 個イメージを表わす言葉を用意してあてはまると思うものを複数選択してもらった。この研究において、「イメージ」が知識と関心度、好感度などの尺度と区別されている。しかし、分析において、これらの尺度が数量化理論第 3 類分析によってパタン分類されたが、尺度間の関連性が言及されていない。同様な研究手法は中国若者が抱く日本人イメージに対する考察においても用いられている。2004 年に北京 5 大学の学生 339 名を対象に行われた調査で、40 組の形容詞で測られた日本人イメージにおいて、「勤勉性」と「誠実性」、「社交性」、「先進性」、「平等性」5 因子が中国人の日本人への好感度に正の影響を及ぼしており、また「勤勉性」と「誠実性」、「社交性」、「伝統的日本人観」4 因子は日本人に対する関心度との間に正の関連性が認められた（李，2007）。但し、この研究は日本人イメージに対する考察であり、研究の結果は日本国に対するイメージにも適用するか否かについて検証が必要である。また学生調査としてサンプルに限定性があるため、結果の一般化が難しいと思われる。

上述の研究と関連している先行研究の第二の問題点とは、国に対するイメージと国民に対するイメージの区別と関連性に対する考察不足である。そもそも、「日本イメージ」が抽象な概念であり、調査の回答者がここの「日本」をどのように理解しているのかによって調査結果も大きく変わる可能性が否めない。たとえ中国人が「日本」に対してネガティブな感情を抱いているとすれば、それは日本という国あるいは日本の国民である日本人に対するものなのか、これを明らかにすることは、中国人の日本に対するイメージの構造を理解するには大いに役に立つと考える。しかし、現時点で中国人の日本国と日本人イメージを区別して同時に考察を行った研究その数が非常に限られている。この意味で、前述した「日本・韓国・中国世論調査」（原・塩田，2000；鮑戸・原，2000）は本稿にとって重要な参考となる。この調査の結果によると、中国人は日本国について「繁栄」や「清潔的」、「伝統的」なイメージを持っているが、日本人に対して「礼儀正しい」や「勤勉」、「気が強い」イメージを持っており、国と国民に対するイメージにおいて差異が存在することが示唆されている。但し、この研究ではこの二種のイメージ、また国と国民に対する好感度の相互関係が考察されていない。

第三に、国民イメージに対する考察において、男性イメージと女性イメージが区別されていないことがあげられる。李（2007）は近現代中国社会における日本人観に対する考察を通じて、当時の日本留学経験がある中国人が抱いた日本人イメージは、「民族的偏見の強い大多数の日本人」と、「美しく優しい日本女性に象徴される一部の日本人」からなっていると指摘し、しかもこのような「美しく優しい日本女性」は、「今でも中国の人々にとって理想的な女性像」であると指摘している。また中国映画における日本人像を考察した応

(2000) は、80年代の作品において日本女性は「美しく、礼儀正しくて、優しく」、「あらゆる点で理想的な女性」として描かれており、同時代の作品に登場したステレオタイプ化された日本軍と大きな違いを示しているとしている。これらの研究結果からは、日本人女性がほかの日本人、とりわけ日本人男性と区別され、特別視されている可能性が示唆されている。しかし、現時点この観点を調査の結果に基づいて検証した研究が見当たらない。実際に中国人は日本人の男性と女性に対して異なるイメージを持っているだろうか。これは非常に新しい視点でありながら、中国人が抱える日本人イメージの研究にとって重要な意義があるのではないかと考える。

## 1.2 本研究のフレームワーク

上述の先行研究における問題点を踏まえて、本研究は実証的な調査結果に基づき、中国人の日本イメージの実態とその構造を明らかにしたい。

まず本研究で扱う「イメージ」の定義について説明する。社会心理学の「国際行動 (international behavior)」研究領域の中心としてイメージ (image) の概念を提出した Kelman (1965) が、それを「個人の認知システムにおけるある対象についての組織化された表象 (representation)」と定義している。日本人研究者御堂岡 (1992) はこの概念を「態度、意見、偏見、ステレオタイプといったすべての態度変数とすべての知識を含むもの」と解釈しており、更に彼はこのように広義的に捉えられている「イメージ」は、「ある人が別の文化集団の文化、成員について持つイメージの複合体が、その人のその文化集団についての理解の仕方」と理解できると指摘した。本研究はこのように広義的に定義されているイメージの概念を採用する。したがって、本研究で言及する中国人の日本イメージは中国という文化集団の成員である中国人が異文化集団としての日本についての理解を指す複合的な概念である。ではこの「イメージ」において具体的にどのような要素が含まれているのか。御堂岡 (1992) はこのイメージを「認知要素」と「評価要素」、「感情要素」、「行動要素」にわけることができると指摘している。認知要素とは「対象の属性についての概念」であり、評価要素とは対象の「優劣についての評価」である。また感情要素とは対象に対する「好悪の感情」であり、行動要素は対象に対する「行動意図」である。この知見に基づき、本研究は「認知」と「評価」、「感情」、「行動意図」という4つの方面から中国人の日本イメージの実態を考察する。考察する際に、日本国と日本人にイメージ及び日本人男性と日本人女性イメージを区別するのも本研究の特徴である。

一方、これらの諸要素の関連性について、「互いに密接に関連するもの」(御堂岡, 1992) であると指摘されているものの、具体的に各要素が互いにどのように影響しあうには言及されていない。実はこの「イメージ」研究は社会心理学の分野において古くから重視さ

れている「態度 (attitude) <sup>3</sup>」研究に深く影響されている。Krech ほか 2 名 (1962) の指摘によると、態度は「認知的成分」(評価や知識に関する諸信念)と「感情的成分」、「行動傾向的成分」からなり、この 3 成分は「正一負」、「肯定一否定」という方向性及びその程度を持つと同時に互いに複雑に関連している。具体的に、ある対象を「良い」と評価するなら「好き」であり「接近したい」と思う。或いは感情が先行するなら、「嫌い」だから「悪い」はずであり「回避したい」となる (榊, 2004)。すなわち、「行動傾向」の形成において、対象に対する「認知」或いは「感情」のどちらの影響が主要なのかは、3 成分の相互関係に関する争点となっている。同様に、この問題はイメージ研究においても議論する価値があると考えられる。中国人が抱える日本に対する「行動意図」は日本に対する「認知・評価」に基づいて形成されるものなのか、あるいは「感情」にまかせるものなのか。もし後者の場合であれば、中国人の抱く日本に対するネガティブな感情、所謂「反日」という感情要素が非常に重要な役割を果たしていると考えられ、更なる注目の必要であろう。これらの理論基礎に基づき、本稿は中国人が抱く日本イメージの構造モデルを構築することによって、「認知」と「評価」、「感情」、「行動意図」4 要素の相互関連、及び各要素のイメージ構造における位置づけを明らかにすることを目指している。

次いで、本研究の研究方法を説明する。本研究は 2012 年筆者が中国で実施したアンケート調査の結果に基づいて考察を試みる。イメージの測定方法、すなわち調査で使用する尺度については、これまでの先行研究を参考にしつつ、中国の実情を考慮して独自の変数、28 問 (サブクエスチョンを含めると合計 177 問) を最終的に取り上げた。調査項目は中国人の日本イメージの実態とイメージの形成要因という二つの部分からなるが、本稿はその中のイメージの実態に対する考察結果であり、イメージの形成要因に関しては別紙で検討したい。イメージの実態の部分において、「認知」と「評価」、「感情」、「行動意図」を測定するために、それぞれに対応する質問項目を設置した。イメージの認知要素と評価要素を調べる際に、対象について思い浮かぶものを自由想起させる方法という自由想起法を用いる研究がある (李, 2007)。しかし、このような自由想起は「様々な次元の回答が得られ、綿密な仮説検証に適さない」と御堂岡 (1992) が指摘している。そこで、本研究はこれまで多くの研究に用いられており、「認知と評価要素を併せ尋ねる」(御堂岡, 1992) ことができる SD 法を採用した。感情要素については、世論調査で多く使用される好感度尺度で測定した。その理由として、世論調査による好感度の結果がメディアに頻繁に取り上げられることにつれて、好感度がイメージを測定する唯一な指標と捉えられる恐れがある。実際に好感度がイメージの全体構造においてどのような役割を果たしているのか、これを統計

---

<sup>3</sup> 態度は社会心理学において「個人が関係を持つあらゆる対象や状況に対するその個人の反応に直接的或いは間接的な影響を及ぼす、経験によって組織された心的神経的な準備状態である」(Allport, 1935; 榊, 2004)。

的手法で明らかにするのは本研究の狙いである。行動要素は「対象と接触したいかどうか」とった意図を尋ねる」(御堂岡, 1992) ために、本研究は「親密志向」と「警戒度」、「模範度」、「関心度」、「社会的距離」という尺度を使用した。その中、「社会的距離」は本来他人種に対する偏見や差別意識を考察するための尺度である (Bogardus, 1925)。質問の設定<sup>4</sup>が現代社会に合わない部分があると考え、本研究は辻村ほか2名 (1984) の「対日イメージ研究」<sup>5</sup>が新しく作成した社会的距離尺度<sup>6</sup>も参考にした。

他方、相手国に対するイメージが形成される際に、意識面においてどのような要素に影響されるだろう。相手国の自国の現在の関係に対する認識 (辻村・古畑・鮑戸, 1987; 鮑戸・原, 2000) や、両国間の重大事件に対する認識 (原・塩田, 2000)、自国に対する評価及び回答者の価値観 (例えば「物質志向」や「ライフスタイル」、「生活満足」、「愛国心」、「階層帰属意識」などの変数がある) (辻村・古畑・鮑戸, 1987)、また回答者の異文化体験意欲を意味する「国際性志向」にも影響されている (荻原, 2007) とこれまでの研究に指摘されている。本研究はこれらの知見を受け、「日中関係と日中間の重大事件に対する認識」と「自己評価」(「愛国心」と「国際志向」、「自国評価」、「生活満足度」の4尺度から構成される) の変数を作成して日本イメージとの関連性を考察する。

本研究のフレームワークを図 1.2.1 のように要約している。

---

<sup>4</sup> 元尺度は7質問から構成されている: 「結婚することで密接な親類関係を築く」、「個人的な親友として自分の所属クラブに迎え入れる」、「近所の人として受け入れる」、「同じ職場で働く」、「自分の国の市民権を与える」、「自分の国への訪問客としてのみ受け入れる」、「自分の国から排斥する」。

<sup>5</sup> 1984年に辻村明を研究代表として、アメリカ、イギリス、フランス、西ドイツ、ハンガリー、ケニア、インドの7カ国で世論調査を行い(サンプル総数8,786名)、これらの国の国民が日本に対して抱くイメージとその理由を考察した。調査はギャラップなどの調査機関を利用し、7カ国に同一の調査票を用いた訪問面接聴取法で実施された。詳しくは「世界は日本をどう見ているか—対日イメージの研究」(辻村・古畑・鮑戸, 1987)を参照せよ。

<sup>6</sup> 「あなたやあなたの家族が日本人と結婚する」、「日本人が、あなたの子供の小学校の先生になる」、「日本人が、あなたのすぐ隣に住むようになる」、「日本人が、レストランのテーブルであなたの隣にすわる」、「日本人の上司のもとで働く」という5つの質問からなる。

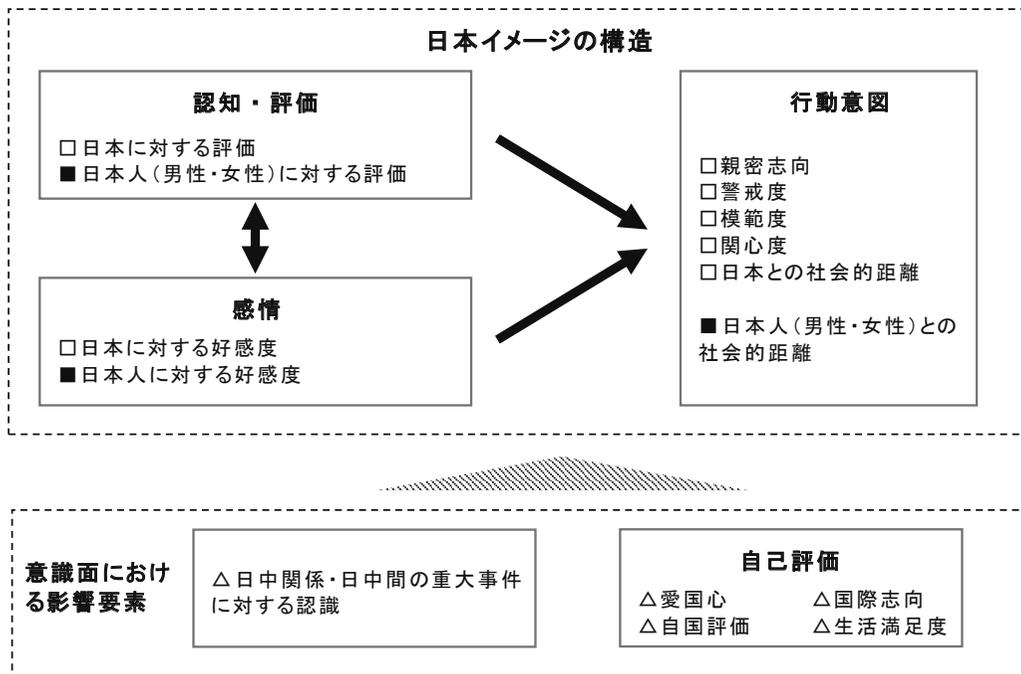


図 1.2.1 本研究のフレームワーク

### 1.3 調査実施の詳細

- (1) 実施期間：2012年5月20日～6月25日<sup>7</sup>
- (2) 実施者：江&陳（東京大学学際情報学府）による共同調査<sup>8</sup>。
- (3) 実施方法：ランダム・ロケーションサンプリング

具体的に、中国本土の7つの地域<sup>9</sup>から一つの省（またそれに準ずる行政単位）、省ごとに一つの市（またそれに準ずる行政単位）、市の都市部ごとに一つの区（またそれに準ずる行政単位）、区ごとに大型集合住宅（社区）二つ（一つは予備用）をランダムに抽出し、社区ごとに目標回収部数200部<sup>10</sup>として調査を実施した。各社区におけ

<sup>7</sup> 調査時期でいえば2012年9月の尖閣諸島の日本国有化をめぐる騒動が起きる前である。

<sup>8</sup> 調査の実施者は本稿の作者江と東京大学大学院学際情報学府博士3年の陳嵩の二人である。実施者の各自の関心に基づいて作成した共同調査票は3つの部分からなり、F1～F10はデモグラフィック属性変数であり、Q1～Q18は江が担当する「外国イメージとメディアの利用」調査、Q19～Q41は陳が担当する「領土問題意識」調査となる。

<sup>9</sup> 香港、マカオ、台湾を除き、中国本土は7つの地域に分けられている（下線したのは今回調査実施した所である）：①東北地域（遼寧省、吉林省、黒竜江省）；②華北地域（北京市（学生サンプルのみ）、天津市、河北省（一般サンプルのみ）、山西省、内モンゴル自治区）；③華東地域（山東省、江蘇省、安徽省、浙江省、福建省、上海市）；④華南地域（広東省、海南省、広西壮族自治区）；⑤華中地域（湖北省、湖南省、河南省、江西省）；⑥西南地域（四川省、雲南省、貴州省、重慶市、西藏自治区）；⑦西北地域（陝西省、青海省、甘肅省、寧夏回族自治区、新疆ウイグル族自治区）。

<sup>10</sup> 目標回収数を200部としたが、実際の回収数との間に誤差が生じている。その理由は二つがある。まず調査は複数の実施者によって同時に行われた。実施者間の連絡が遅れたこともあり、調査が中止される前にすでに目標数を越えた場合がある。第二に、東北と華北、華南、西南、西北地域において

る具体的な回収方法は調査実施者によって異なる部分があり、表 1.3.1 を参照せよ。

表 1.3.1 調査の実施地と具体的実施方法

| 地域 | 実施地                                 | 集合住宅社区における実施方法  |
|----|-------------------------------------|---|
| 東北 | 遼寧省大連市甘井子区 n=169<br>(回収率 78.2%)     | 実施者：陳嵩<br>集合住宅社区の住民管理委員会の協力を得て調査票を配布し、集合調査を実施した。  |
| 華北 | 河北省張家口市宣化区 n=159<br>(回収率 64.6%)     |   |
| 華東 | 江蘇省鎮江市揚中 n=212<br>(アタック成功率 52.6%)   | 実施者：江暉<br>鎮江市と広州市では、現地の大学生を雇用し、社区のビル番号、階数、部屋番号の偶数のものを抽出して留置法で実施した <sup>11</sup> 。         |
| 華南 | 広東省広州市越秀区 n=112<br>(アタック成功率 58.3%)  |   |
| 華中 | 江西省南昌市青雲譜区 n=227<br>(アタック成功率 62.3%) | 南昌市では現地の調査会社に上述の実施方法を指示して実施してもらった。  |
| 西南 | 重慶市渝中区 n=114<br>(回収率 57.6%)         | 実施者：江暉&陳嵩<br>重慶市では現地の大学生を雇用し、西安市では現地の調査会社のスタッフに協力してもらい、社区の住民管理委員会の協力を得て調査票を配布し、集合調査を実施した。 |
| 西北 | 陝西省西安市高新区 n=159<br>(回収率 71.3%)      |   |

(4) サンプルの構成<sup>12</sup>：

回収数： 一般サンプル 1152 部

性別： 男性 44.1%，女性 54.1%，無回答 1.8%

年齢： 年齢 18～83 歳（10 代 0.7%，20 代 42.8%，30 代 31.3%，40 代 13.3%，50 代 8.9%，60 代以上 2.5%，無回答 0.5%）

学歴： 小学校 1.2%，中学校 5.1%，中専 10.0%，高校 13.2%，大専 28.6%，大学 34.3%，修士 6.6%，博士及び以上 0.7%，無回答 0.3%

職業： 公務員 16.3%，専門職 17.6%，会社員 26.8%，サービス・製造業 19.2%，農林漁業 2.5%，その他 16.0%、無回答 1.6%

民族： 漢民族 96.4%，その他少数民族 2.9%，無回答 0.7%

宗教： 有 14.0%，無 84.7%，無回答 1.3%

は、調査予定期間（1 週間）の間に目標数の回収ができなかった。調査の延長は他の地域の調査に影響を与えると考え、目標回収数に達していないまま中止した。今回の分析は回収した調査票に対して欠損値処理をした後全部使用した。因みに、表 1.3.1 の「回収率」は実際に配布した部数と回収数で計算した数値である。

<sup>11</sup> 調査実施者は対象となる家庭を訪問し、該当家庭の常住者の人数分の調査表を配布して当日また翌日に回収した。アタック成功率とは訪問した家庭総数における調査協力を承諾した家庭の比率である。但し実際の回収数と承諾した回答数の間に誤差が生じている。

<sup>12</sup> サンプルは一般サンプルと学生サンプルという二つの部分から構成されているが、本稿の考察は一般サンプルの調査結果に基づいて行ったものである。

## 2. 日本国イメージの構造モデル

### 2.1 日本国に対するイメージの実態

日本の国に対する認知・評価について、本調査ではSD法を用いて、表2.1.1に示している9組のSD項目を五件法で測定した。調査票の質問項目においてSD項目の左側はポジティブな評価となり、右側はネガティブな評価となる。例えば、「先進的」(1点)と「後進的」(5点)の間に、回答者に自分の思いが最も当てはまるところに点数をつけてもらった。各項目の平均得点と標準偏差、また9項目の平均得点に対して分散分析を行った結果は下表の通りである。

表 2.1.1 日本国に対する認知・評価の平均得点及び因子分析の結果

| 項目                   | 因子Ⅰ         | 因子Ⅱ         | 共通性  | 平均得点<br>(標準偏差)   |
|----------------------|-------------|-------------|------|--|
| 1). 平和的—好戦的          | <b>0.88</b> | 0.14        | 0.71 | 3.95(1.09)   |
| 2). 信頼できる—信頼できない     | <b>0.82</b> | 0.01        | 0.67 | 3.62(1.14)   |
| 3). 国際社会に貢献的—そうではない  | <b>0.80</b> | -0.07       | 0.68 | 3.56(1.10)   |
| 4). 男女平等—男女平等ではない    | <b>0.71</b> | 0.04        | 0.49 | 3.72(1.07)   |
| 5). 安全の—危険の          | <b>0.50</b> | -0.23       | 0.38 | 3.04(1.18)   |
| 6). 貧しい—豊かである(反転)    | 0.10        | <b>0.94</b> | 0.83 | 3.86(1.02)   |
| 7). 後進的—先進的(反転)      | 0.12        | <b>0.89</b> | 0.73 | 4.08(1.00)   |
| 8). 文化が乏しい—文化が豊か(反転) | -0.29       | <b>0.54</b> | 0.48 | 3.26(1.12)   |
| 9). 保守閉鎖的—自由開放的(反転)  | -0.30       | <b>0.40</b> | 0.33 | 3.08(1.12)   |
| 固有値                  | 4.07        | 1.92        | 5.99 | 分散分析(一般線形<br>モデル反復測定)<br>F(4.84, 5541.79):<br>785.85, p<.001 |
| 回転後の負荷平方和            | 3.32        | 2.58        |      |  |
| 因子相関                 |             | -0.33       |      |  |
| α信頼性係数               | 0.86        | 0.80        |      |  |

※数値は主因子法・プロマックス回転後の因子負荷量である。

平均得点 3.00 以下の項目に対して反転処理して因子分析(主因子法・プロマックス回転)を行った。その結果、固有値 1 以上という基準で中国人の日本国に対する評価においては因子 2 つが抽出された。0.40 以上の因子負荷量を基準として因子を解釈すると、第 1 因子は「平和的—好戦的」や「信頼できる—信頼できない」、「国際社会に貢献的である—国際社会に貢献的ではない」など 5 つの項目の因子負荷量が高かったため、ここで「脅威性」と命名する。同様に、第 2 因子では因子負荷量が高かったのは「貧しい—豊かである(反転後)」や「後進的—先進的(反転後)」などの 4 項目であるため、「先進性」因子と解釈できる。この「脅威性」と「先進性」の 2 因子の共存は、現在中国人の日本国に対する評価においては、「脅威性」と「先進性」この二つ矛盾のようにみえる要素が同居しており、比較的単純な二次元構造となっていることを示唆している。また、因子固有値と因子寄与率からみれば、このような日本国に対する評価においては、「脅威性」因子が「先進性」因子

より大きく寄与しているようにみえる。すなわち、日本という国に対して、回答者はその先進的な一面を評価しているものの、日本を脅威な存在と感じており、しかもこのネガティブな側面がポジティブな要素を上回っている傾向が示されている。

また、日本国に対してどのような感情を抱いているのかについて、本調査は好感度尺度を設置し、「1. 全く好きではない」～「5. 非常に好きである」という五件法で尋ねた。行動意図の部分において、日本国に対する「関心度」（あなたは日本に対して関心を持っていますか）と「警戒度」（あなたは日本に対して警戒を持つべきだと思いますか）、「模範度」（あなたは日本を見習うべきだと思いますか）、「親密志向」（あなたは今後日本ともっと協力して、親密な関係を築くべきだと思いますか）、及び日本国との「社会的距離」の変数を作成して質問項目にした。回答者の日本に対する「好感度」また「関心度」、「警戒度」、「模範度」、「親密志向」の高低レベルを示すために、表 2.1.2 で日本とその他の 7 カ国の平均得点をまとめて表示している。

表 2.1.2 8 カ国に対する好感度及び行動意図（一部）の平均値の比較

| 順番                | 好感度   | 関心度   | 警戒度   | 模範度   | 親密志向  |
|-------------------|---|---|---|---|---|
| 1                 | 口 3.35(0.90)                                | 米 3.50(1.03)                                | 日 4.09(0.94)                                | 米 4.16(0.81)                                | 口 3.72(0.92)                                |
| 2                 | 米 3.20(1.04)                                | 日 3.28(1.13)                                | 米 3.95(0.95)                                | 日 3.88(1.05)                                | 米 3.58(0.95)                                |
| 3                 | 韓 3.16(1.03)                                | 韓 3.17(1.05)                                | フィ 3.74(1.07)                               | 口 3.73(0.95)                                | 韓 3.38(0.96)                                |
| 4                 | 朝 2.79(0.91)                                | 口 3.10(1.07)                                | 越 3.62(1.02)                                | 韓 3.72(0.99)                                | 朝 3.36(0.93)                                |
| 5                 | 印 2.69(0.90)                                | 朝 2.86(1.05)                                | 印 3.57(0.96)                                | 印 3.01(1.08)                                | 印 3.18(0.92)                                |
| 6                 | 日 2.48(1.12)                                | フィ 2.74(1.13)                               | 韓 3.47(0.97)                                | 朝 2.74(1.12)                                | 日 3.03(1.10)                                |
| 7                 | 越 2.35(0.94)                                | 印 2.69(1.01)                                | 朝 3.29(1.01)                                | 越 2.62(1.12)                                | 越 2.86(1.01)                                |
| 8                 | フィ 2.26(0.97)                               | 越 2.56(1.06)                                | 口 3.25(1.05)                                | フィ 2.59(1.13)                               | フィ 2.71(1.06)                               |
| 分散分析（一般線形モデル反復測定） | n=1145<br>F(5.50,6296.52)<br>=294.05,p<.001 | n=1138<br>F(5.17,5879.87)=<br>214.68,p<.001 | n=1147<br>F(5.08,5818.84)<br>=186.91,p<.001 | n=1143<br>F(3.34,3815.46)=<br>629.12,p<.001 | n=1141<br>F(5.10,5812.88)=<br>242.64,p<.001 |

※米（アメリカ）、日（日本）、韓（韓国）、朝（北朝鮮）、印（インド）、口（ロシア）、フィ（フィリピン）、越（ベトナム）。

※尺度：1 全くそう思わない～5 非常にそう思う。

※平均値の後ろの括弧内の数値は標準偏差である。

結果に示されているように、日本に対する好感度は 8 カ国のうち第 6 位であり、先進国の間で最下位となっている。また、回答者は日本に対して高い関心を持ち、日本を見習うべきだと肯定している一方、非常に警戒しており、今後国同士として更に親密になることに対して消極的な態度を示しているようにみえる。すなわち、回答者の日本に対する行動意図においてはアンビバレントな部分が存在していると捉える。

因みに、日本のどのような側面について関心を持っているのかについて、本調査が設置した6つの項目を関心得点の高い順に並べると、軍事・国防(平均得点3.33, 標準偏差1.17)、経済・貿易(平均得点3.20, 標準偏差1.09)、政治・外交(平均得点3.17, 標準偏差1.15)、科学技術・学術研究(平均得点3.05, 標準偏差1.12)、社会環境・国民生活(平均得点3.05, 標準偏差1.13)、文化・スポーツ(平均得点2.92, 標準偏差1.10)のように、軍事や経済、政治に対する関心度が比較的高いのは特徴である。

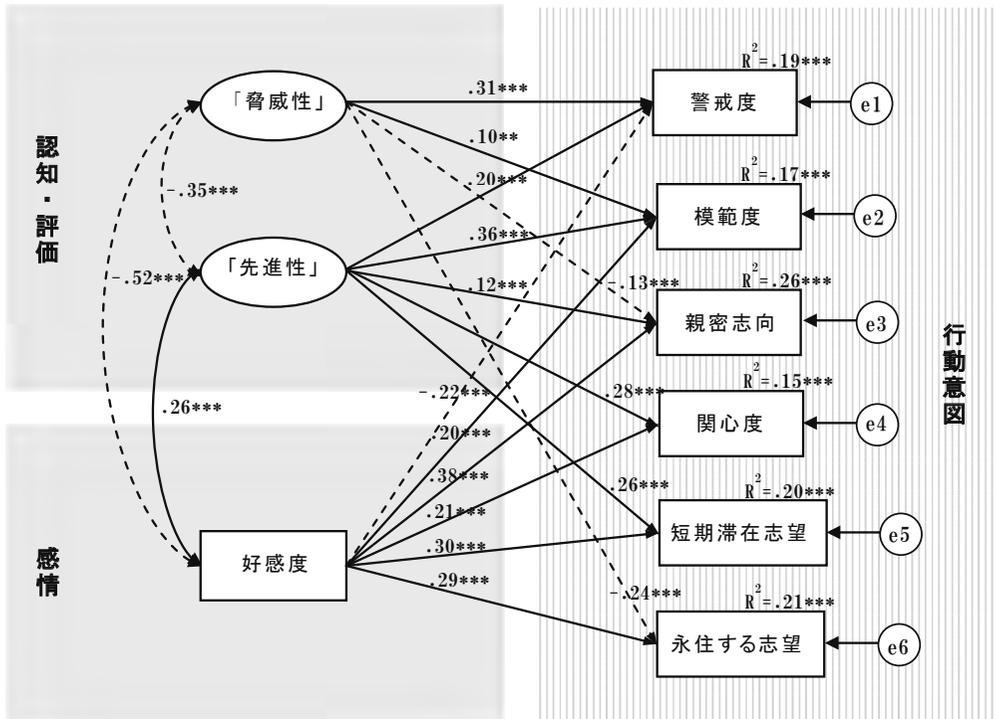
日本国との社会的距離に関して、回答者に「あなたが日本で短期滞在する」と「あなたが日本で永住する」という二つの項目について、「反対・拒絶する」(1点)～「賛成・歓迎する」(5点)のように5件法で尋ねた。結果として、「永住する」(平均得点2.26, 標準偏差1.19)に比べ、「短期滞在」(平均得点3.35, 標準偏差1.18)に対して肯定的な態度を示す回答者が有意に多かった( $t(1142)=29.44, p<.001$ )。

## 2.2 日本国イメージの構造モデルの構築

では、日本国に対する「認知・評価」、「感情」、「行動意図」これらの諸変数は互いにどのように影響し合い、それに日本国イメージの構造においてどのように位置づけられているのか。これを明らかにするために、本研究は前述した理論に基づき、中国人が抱く日本国イメージの構造モデルの構築を試みた。あらかじめ設定したモデルをもとに共分散構造分析を行った結果は図2.2.1のように、パス・ダイアグラムを用いて表現した。パス係数(標準偏回帰係数)が5%水準有意であったパスを決定係数( $R^2$ )とともに表示し、また負のパス見やすくするために破線で表示した。変数が多いため、モデル全体において不安定な部分があることは否めないが、このモデルにいくつか興味深い結果が示されている。

まず、「認知・評価要素」と「感情要素」の関連性を見よう。ここの「脅威性」と「先進性」変数は2.1の因子分析によって算出した因子得点の結果を用いた。「脅威性」因子と「好感度」の間に負の相関がみられ、日本に対するネガティブな評価は日本への好感を損ない、また日本に対するネガティブな感情が日本への脅威感を増やす可能性も示唆されている。それに対して「先進性」因子と「好感度」の間に正の相関が見られた。日本の先進性に対する賞賛が日本への好感をもたらし、あるいは日本に対して好感を持つ人はより日本の先進性を肯定的に評価することが想像できる。但し、「好感度」との相関の強さからみれば、日本国に対する評価の2因子の間に、「脅威性」( $-.52, p<.001$ )に対するネガティブな評価と比べ、「先進性」( $.26, p<.001$ )に対するポジティブな評価の影響力は限定的であるとみられる。また2.1の因子分析の結果に示されているように、現在中国人の日本国に対する評価において、「脅威性」因子が「先進性」因子より顕著に表わしていることもあわせて考えれば、「認知・評価要素」と「感情要素」の間では、「脅威性」因子と「好感度」の間にある負の相関が中国人の日本国イメージの構造全体において非常に敏感な部分であると捉

えられる。一方、「脅威性」と「先進性」2因子の間では負の相関が示されている。この結果からは中国人の日本に対する脅威感は日本の先進性に対する評価から由来する可能性が低いと示唆されているだろう。



※n=1152  
 ※\*\*\* p<.001, \*\* p<.01  
 ※RMSEA=.14, AIC=512.04

図 2.2.1 日本国イメージのパス・ダイアグラム

次いで、「認知・評価要素」及び「感情要素」と「行動意図要素」との関連性に注目する。全体として、中国人の日本国に対する「行動意図」は日本国に対する「認知・評価」また「感情」この2要素ともに影響されているとみられる。項目別に見れば、「脅威性」因子(.31,  $p < .001$ )と「先進性」因子(.20,  $p < .001$ )両方とも日本に対する「警戒度」を高めるのに対して、日本への好感(-.22,  $p < .001$ )はこの警戒感を低下する傾向がみられた。「模範度」については、「認知・評価要素」の2因子及び「好感度」(.20,  $p < .001$ )この3項目との間は全て正のパスが認められ、その中「先進性」因子(.36,  $p < .001$ )が最も寄与していることが明らかとなった。すなわち、日本国の「先進性」に対する賞賛は日本国に対する見習う志望につながっている重要な原因と捉えられる。しかし一方、「脅威性」因子(.10,  $p = .002$ )もこの「模範度」を高める傾向が現れており、これは興味深い結果といえ、

今後の更なる研究に基づいて解釈する必要があると考える。他方、日本に対する関心度の形成に、「脅威性」因子の影響が見られなかったが、「先進性」因子 (.28,  $p < .001$ ) も「好感度」 (.21,  $p < .001$ ) も正の影響を与えている。日本と親密な関係を築く志望(「親密志向」)に対して、「脅威性」 (-.13,  $p < .001$ ) と「先進性」 (.12,  $p < .001$ ) 2 因子に比べ、「好感度」 (.38,  $p < .001$ ) の影響力が大きく捉えられる。この傾向は日本での「短期滞在志望」と「永住志望」においてもみられた。日本の先進性に対する肯定 (.26,  $p < .001$ ) は日本で短期滞在する志望を高めるのに対して、長期居住の場合になるとこの正のパス関係が消えており、かわりに日本に対する脅威感をもたらす負の関係 (-.24,  $p < .001$ ) が作用している。但しこの2項目に対して、「認知・評価要素」と比べて「好感度」が与える影響が比較的大きかった(「短期」.30, 「長期」.29, 両方とも  $p < .001$ )。

上述の分析によると、中国人の日本国に対する「行動意図」は日本への「好感度」に影響されながらも、日本に対する「認知・評価」に基づいて形成される部分が存在することが検証されている。対象に対する「認知・評価」は事実(あるいは相手側が持っている自己イメージ)と一致するかどうかはイメージ研究における一つの問題点とはいえ(御堂岡, 1992)、今回の調査結果からみれば、中国人の日本に対する「行動意図」は全て感情に託すわけではなく、「認知・評価」に基づく「理性」的な判断が含まれていると言ってよかろう。このような判断は特に「警戒度」と「模範度」、「関心度」この3項目において明確に現れている。それに対して、「親密志向」と「短期滞在志望」、「永住志望」の3項目においては「好感度」の影響が比較的大きい。すなわち、意識上或いは実際の行動において、相手との距離を短縮しようという意図の発生にあたり、感情要素が先行する可能性が高いと示唆されている。現在中国人の日本国に対する好感度は他の国と比べて低い水準にあると上述の調査結果に示されている。「好感度」は日本への「認知・評価」及び「行動意図」に負の影響を及ぼしていることが否めないものの、日本イメージの全体構造においてこれは一部分の変化に過ぎないと捉えられるだろう。

以上は中国人の日本国イメージに関する分析結果である。次章では日本人イメージに対して考察を行う。

### 3. 日本人イメージの構造モデル

#### 3.1 日本人に対するイメージの実態

日本人に対する認知・評価について、日本国に対するイメージと同様にSD法を用いて5件法で考察した。18組の言葉からなるSD項目は図3.1.1に示されている通りである。そこで、本研究は日本人男性と日本人女性を区別して質問を設置した。では中国人の日本人男性と女性に対する認知・評価において差異があるのか、本研究はまず18項目の平均得点に対してt検定を行った。その結果、「真面目である—不真面目な」という項目のみ男女の差が見られなかったが( $t(1134)=0.97, n.s.$ )、その他の17項目において全て有意な差が認められた。すなわち、中国人は日本人男性と女性に対して異なる認知・評価をしていることが明らかになった。また、「愛国心が強い—愛国心が弱い」という項目において、男性に対する評価得点が女性より左側寄りとなり、女性に比べて男性のほうは愛国心が強いと評価されているのに対して、その他の全ての項目において女性は男性よりポジティブに認知・評価されているとみられる。

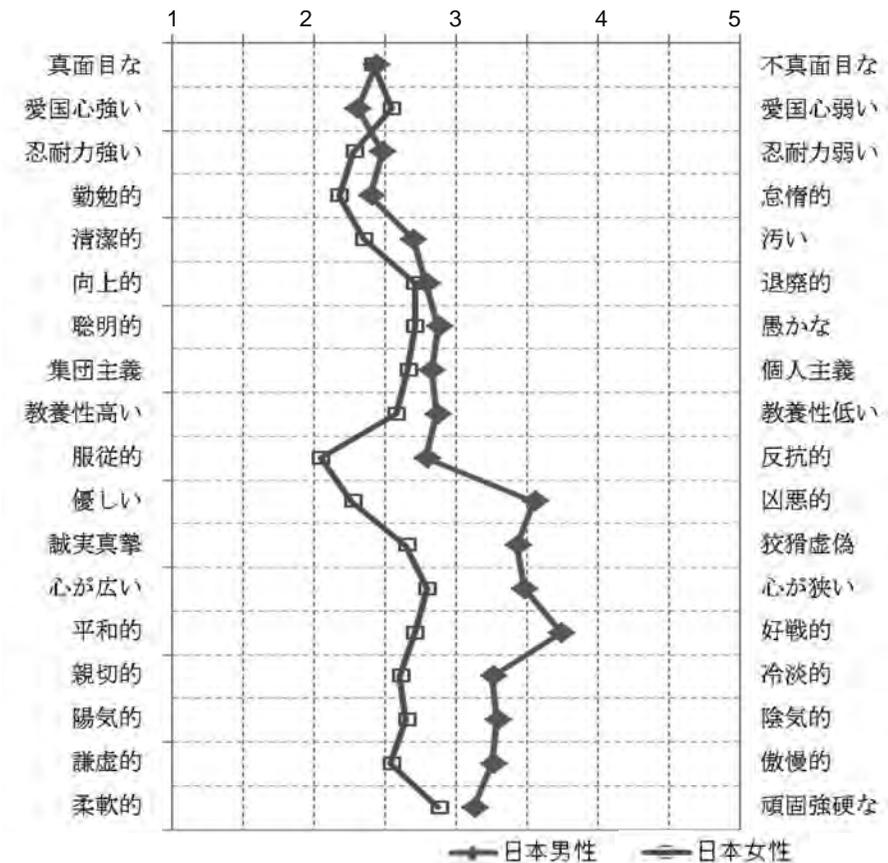


図 3.1.1 日本人男性・女性に対する認知・評価の平均値の比較

ところが、上述の結果は回答者の性別によって差異が生じる可能性が考えられる。したがって本研究は性別要素が日本人男性・女性に対する認知・評価に影響を与えているか否かを明らかにするために、重回帰分析を行った。結果として、男性評価の18項目の内の8項目<sup>13</sup>、女性評価の18項目の内の2項目<sup>14</sup>において、回答者の性別による有意な差が認められた。しかし、標準偏回帰係数はいずれも0.1未満であるため、今回の調査結果において、日本人認知・評価における回答者の性別による影響は極めて小さいといえる。

表 3.1.1 日本人男性に対する認知・評価の因子分析の結果

|                   | 因子 I       | 因子 II      | 共通性   | 平均得点<br>(標準偏差) |
|-------------------|------------|------------|-------|----------------|
| 1).不真面目な—真面目な(反転) | <b>.98</b> | .18        | .79   | 3.56(1.16)     |
| 2).愛国心が弱い—強い(反転)  | <b>.90</b> | .21        | .61   | 3.69(1.16)     |
| 3).忍耐力が弱い—強い(反転)  | <b>.84</b> | .10        | .62   | 3.52(1.18)     |
| 4).怠惰的—勤勉的(反転)    | <b>.75</b> | .01        | .55   | 3.69(1.16)     |
| 5).汚い—清潔的(反転)     | <b>.69</b> | -.12       | .60   | 3.30(1.21)     |
| 6).退廃的—向上的(反転)    | <b>.66</b> | -.19       | .63   | 3.21(1.11)     |
| 7).愚かな—聡明的(反転)    | <b>.59</b> | -.24       | .59   | 3.12(1.12)     |
| 8).個人主義—集団主義(反転)  | <b>.59</b> | -.20       | .54   | 3.17(1.30)     |
| 9).反抗的—服従的(反転)    | <b>.58</b> | -.07       | .39   | 3.20(1.30)     |
| 10).教養性が低い—高い(反転) | <b>.51</b> | -.32       | .56   | 3.13(1.10)     |
| 11).優しい—凶悪的       | .12        | <b>.92</b> | .73   | 3.56(1.06)     |
| 12).誠実真摯—狡猾虚偽     | .01        | <b>.87</b> | .74   | 3.43(1.07)     |
| 13).心が広い—狭い       | .00        | <b>.83</b> | .69   | 3.48(1.05)     |
| 14).平和的—好戦的       | .16        | <b>.85</b> | .58   | 3.74(1.10)     |
| 15).親切的—冷淡的       | -.10       | <b>.72</b> | .61   | 3.26(1.10)     |
| 16).陽氣的—陰氣的       | -.04       | <b>.71</b> | .53   | 3.29(1.13)     |
| 17).謙虚的—傲慢的       | -.12       | <b>.67</b> | .56   | 3.26(1.21)     |
| 18).柔軟的—頑固強硬な     | -.34       | <b>.40</b> | .42   | 3.14(1.13)     |
| 固有値               | 9.20       | 2.28       | 11.48 |                |
| 回転後の負荷平方和         | 7.60       | 7.30       |       |                |
| 因子相関              |            | -.61       |       |                |
| α信頼性係数            | 0.93       | 0.90       |       |                |

※数値は主因子法・プロマックス回転後の因子負荷量である。

次いで、日本人男性と女性に対する認知・評価に対して更に因子分析を行った(表 3.1.1, 表 3.1.2)。平均得点 3.00 以下の項目を反転処理し、因子抽出の基準は表 2.1 と同様である。結果として、日本人男性に対する認知・評価は因子 2 つ、女性に対する認知・評価は因子 1 つが抽出された。男性因子 I については、「不真面目な—真面目な」(反転)や「忍

<sup>13</sup> 「服従的—反抗的」(.07, p<.05) ; 「平和的—好戦的」(.09, p<.01) ; 「謙遜的—傲慢的」(.07, p<.05) ; 「優しい—凶悪的」(.08, p<.01) ; 「誠実真摯—狡猾虚偽」(.06, p<.05) ; 「向上的—退廃的」(.06, p<.05) ; 「清潔的—汚い」(.06, p<.05) ; 「柔軟的—頑固強硬な」(.07, p<.05) 。

<sup>14</sup> 「清潔的—汚い」(.09, p<.01) ; 「柔軟的—頑固強硬な」(.07, p<.05) 。

耐力が弱い—忍耐力が強い」(反転)、「怠惰的—勤勉的」(反転)、「汚い—清潔的」(反転)などの項目の因子負荷量が高く、これらは日本人男性の行動面における特徴に対するポジティブな評価と捉えられるため、因子Ⅰを「行動性」と命名する。それに対して、男性因子Ⅱでは、「優しい—凶悪的」や「誠実真摯—狡猾虚偽」、「心が広い—狭い」、「平和的—好戦的」、「親切的—冷淡的」などの項目が高い因子負荷量を見せ、回答者の日本人男性の人間性に対して厳しく評価していることが明らかであり、したがって因子Ⅱを「人間性」と命名する。すなわち、中国人の日本人男性に対する認知・評価においてはポジティブとネガティブの2つの要素が存在しており、二次元構造になっているとみられる。一方、日本人女性に対する認知・評価は比較的単純なものとなっている。日本女性は全体としてポジティブに評価されており、その中で「誠実真摯」や「真面目な」、「謙虚的」、「向上的」、「優しい」などの項目に対する賞賛が際立っている。このような女性に対する認知・評価はこれまで指摘されてきた中国の小説や映画に描かれた伝統的な女性像と共通する部分が見られ、因子を「伝統性」と命名した。

表 3.1.2 日本人女性に対する認知・評価の因子分析の結果

|                   | 因子Ⅰ   | 共通性   | 平均得点<br>(標準偏差) |
|-------------------|-------|-------|----------------|
| 1).不真面目な—真面目な(反転) | .84   | .71   | 3.58(1.05)     |
| 2).狡猾虚偽—誠実真摯(反転)  | .84   | .71   | 3.35(0.98)     |
| 3).傲慢的—謙虚的(反転)    | .81   | .65   | 3.46(1.03)     |
| 4).退廢的—向上的(反転)    | .80   | .64   | 3.29(0.97)     |
| 5).汚い—清潔的(反転)     | .79   | .62   | 3.65(1.13)     |
| 6).凶悪的—優しい(反転)    | .79   | .63   | 3.73(1.07)     |
| 7).教養性が低い—高い(反転)  | .78   | .62   | 3.42(1.00)     |
| 8).冷淡的—親切的(反転)    | .77   | .59   | 3.39(1.02)     |
| 9).愚かな—聡明的(反転)    | .76   | .58   | 3.29(0.98)     |
| 10).心が狭い—広い(反転)   | .76   | .58   | 3.20(0.96)     |
| 11).忍耐力が弱い—強い(反転) | .74   | .55   | 3.72(1.10)     |
| 12).怠惰的—勤勉的(反転)   | .74   | .55   | 3.12(0.96)     |
| 13).愛国心が弱い—強い(反転) | .73   | .53   | 3.45(1.02)     |
| 14).好戦的—平和的(反転)   | .73   | .53   | 3.29(0.98)     |
| 15).個人主義—集団主義(反転) | .72   | .52   | 3.34(1.02)     |
| 16).陰氣的—陽氣的(反転)   | .71   | .50   | 3.35(1.02)     |
| 17).頑固強硬な—柔軟的(反転) | .70   | .49   | 3.12(0.96)     |
| 18).反抗的—服従的(反転)   | .68   | .46   | 3.95(1.00)     |
| 固有値               | 10.84 | 10.84 |                |
| α信頼性係数            | 0.96  |       |                |

※数値は主因子法・プロマックス回転後の因子負荷量である。

先行研究の飽戸・原（2000）の分析結果では、中国人の日本人イメージは三次元構造となり（「友好信頼」因子と「攻撃性」因子、「両面価値的」因子）、また李（2007）の研究によると中国人の日本人イメージは八次元にも及ぶ複雑な構造（「勤勉性」因子と「誠実性」因子、「社交性」因子、「先進性」因子、「平等性」因子、「開放性」因子、「流行イノベータ」因子、「伝統的日本人観」因子）となっていると指摘されている。それに対して、本研究は日本人男性と女性を区別して質問したがゆえに、回答者の中でその考えが整理されていると考えられ、得られた日本人に対する認知・評価は比較的単純な構造となっている。また、因子分析に投入したSD項目の数（飽戸・原が23組、李が40組に対して本調査は18組を投入した）も分析結果に多少影響を与えていると思われる。他方、李（2007）の研究は学生調査の結果に基づくものであるため、サンプルの特殊性が調査結果に与える影響が大きいと考えられる。中国の若者が日本人をどのように評価しているのかについて、今後同様に学生調査の結果を用いて比較研究を行いたい。

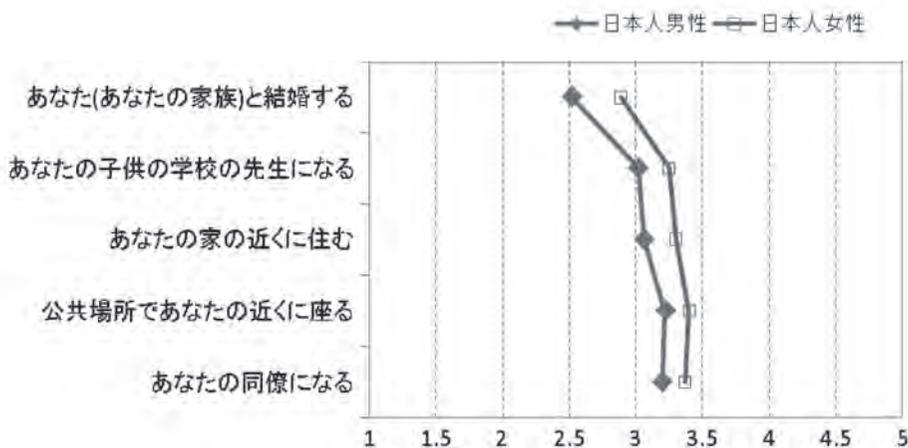


図 3.1.2 日本人男性・女性に対する行動意図の平均値の比較

また、日本人男性と女性に対する行動意図においても差異が見られた。本研究は日本人男性と女性に対する社会的距離について、「1). 日本人の男性（女性）があなた、またあなたの家族と結婚する」(t(1142)=13.50, p<.001)、「2). 日本人男性（女性）があなたの子どもの学校の先生になる」(t(1142)=11.47, p<.001)、「3). 日本人男性（女性）があなたの家の近くに住む」(t(1142)=11.37, p<.001)、「4). 日本人男性（女性）がレストランやバスなど公共の場所でああなたの近くに座る」(t(1142)=9.74, p<.001)、「5). 日本人男性（女性）があなたの同僚になる」(t(1142)=9.32, p<.001)という5つの項目を設置し、「反対・拒絶する」(1点)～「賛成・歓迎する」(5点)の5件法で質問した。各項目の平均値に対してt検定を行った結果、全ての項目において男女間の有意な差が認められた。結果は図 4.1.2

のようである。すなわち、「行動意図」において、日本人男性と比べ、中国人は日本人女性に対して比較的寛容な態度を示しているとみられる。

それに、本研究は日本国民に対する好感度も尋ねた<sup>15</sup>。好感度の平均値を比較すれば、日本国民への好感度は8カ国の間では第6位となり、低い水準にあることが示されている ( $F(5.60, 6401.58)=232.78, p<.001$ )。8カ国の国民好感度を順位で並べると、ロシア(平均値 3.25, 標準偏差 0.89)、アメリカ(平均値 3.24, 標準偏差 0.99)、韓国(平均値 3.11, 標準偏差 1.04)、北朝鮮(平均値 2.93, 標準偏差 0.88)、インド(平均値 2.76, 標準偏差 0.87)、日本(平均値 2.50, 標準偏差 1.07)、ベトナム(平均値 2.48, 標準偏差 0.93)、フィリピン(平均値 2.43, 標準偏差 0.96)のようになっている。

### 3.2 日本人イメージの構造モデルの構築

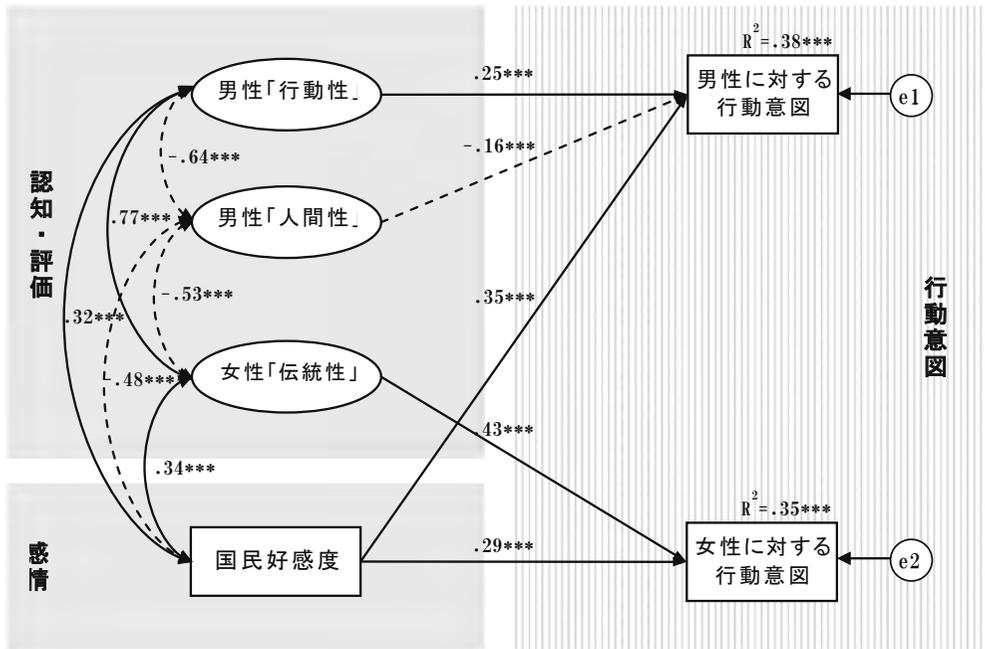
では、日本人に対する「認知・評価」と「感情」、「行動意図」の各要素はどのように互いに影響しあい、日本人イメージを構成しているのか。本研究は日本国に対するイメージと同じように、日本人イメージの構造モデルを構築した。共分散構造分析の結果は図 3.2.1 に示されているようである。標準偏回帰係数が 5%水準有意であるパスはパス係数と決定係数 ( $R^2$ ) を表示し、負のパスは破線で表示した。モデルにおける「認知・評価」要素の3変数は因子分析によって得られた因子得点の結果を用いた。「行動意図」要素の2変数は日本人男性と女性に対する行動意図の各項目の得点を加算して算出した平均値であり、クロンバックの  $\alpha$  信頼性係数はそれぞれ 0.92 と 0.93 となる。

結果からみれば、「認知・評価」要素と「感情」要素との間では、日本人男性の「行動性」(.32,  $p<.001$ ) と女性の「伝統性」(.34,  $p<.001$ ) に対するポジティブな認知・評価は日本国民に対する好感度との間に正の関連性が見られたが、男性の「人間性」に対するネガティブな認知・評価と「国民好感度」との間に比較的強い負の相関が示されている (-.48,  $p<.001$ )。このような「国民好感度」からは日本人男性に対する行動意図 (.35,  $p<.001$ ) にも女性に対する行動意図 (.29,  $p<.001$ ) にも正のパスがみられ、日本人に対する好感度は日本人に対する行動意図を高めることが認められた。一方、「認知・評価要素」と「行動意図要素」との間において、男性の「行動性」に対するポジティブな認知・評価は男性に対する行動意図を向上させるのに対して (.25,  $p<.001$ )、男性の「人間性」に対するネガティブな認知・評価はその行動意図を低下させる (-.16,  $p<.001$ ) ことが明らかになった。また、女性に対する行動意図へのパスにおいて、女性の「伝統性」に対するポジティブな評価が正の影響を与えており (.43,  $p<.001$ )、しかもその影響力は日本人への好感度を上回ってい

---

<sup>15</sup> 国民全体に対する好感度を尋ねるのは本研究の一つの目的である。その上に男女に対する好感度をそれぞれに尋ねるのは回答者に負担をかけてしまい、また調査実施者の意図が回答者に推測される恐れもあると考えるため、今回の調査ではあえて男女を区別せずに質問した。

るとみられる (.29,  $p < .001$ )。この結果からみれば、中国人は日本人に対して行動を行う際に、好悪の感情に基づく部分があるとはいえ、人に対する認知・評価も判断の根拠であると示唆されている。但し、「認知・評価」要素と「感情」要素のどちらが先行するかという、相手の日本人を一人の個人として接するか、それとも日本の国民として意識するかによって行動が大きく変わる可能性があると考えられる。この特徴は日本人女性イメージの構造モデルにおいてより明確に表わしている。



※n=1152  
 ※\*\*\*  $p < .001$   
 ※RMSEA=.13, AIC=2041.46

図 3.2.1 日本人イメージのパス・ダイアグラム

### 3.3 日本国イメージと日本人イメージの諸要素の関連性

以上は中国人の抱く日本国イメージと日本人イメージの構造をそれぞれパス・ダイアグラムで示したことによって、各モデルにおける「認知・評価」要素と「感情」要素、「行動意図」要素の位置づけ、及びこれらの諸要素の相互関係が明らかになった。では、このような日本国イメージと日本人イメージの間にどのような関連性があるだろうか。表 3.3.1 は日本国イメージと日本人イメージの諸要素における各項目間の相関係数を示している。

日本人男性の「行動性」及び女性の「伝統性」に対する認知・評価2項目と日本国に対する警戒度との間に有意な相関が見られなかったが、そのほかに、日本国イメージと日本

人イメージの諸要素における全ての項目との間に有意な関連性が見られた。これは中国人の抱く日本の国に対するイメージと日本の国民に対するイメージと強く関連していることを意味する。その中、日本人男性の「行動性」に対する認知・評価と日本国の「先進性」に対する認知・評価の間 (.59,  $p < .001$ ) や、男性の「人間性」に対する認知・評価と日本国の「脅威性」に対する認知・評価の間 (.65,  $p < .001$ )、女性の「伝統性」に対する認知・評価と日本国の「先進性」に対する認知・評価の間 (.58,  $p < .001$ )、また、日本人に対する好感度と日本国に対する好感度との間 (.63,  $p < .001$ )、それに、男性に対する行動意図と日本国での短期滞在する志望との間 (.69,  $p < .001$ ) 及び日本国での永住する志望との間 (.53,  $p < .001$ )、女性に対する行動意図と日本国での短期滞在する志望との間 (.74,  $p < .001$ ) に比較的強い相関がみられた ( $r > .50$ )。すなわち、日本国に対するイメージと日本の国民に対するイメージの「認知・評価」要素と「感情」要素、「行動意図」要素の各要素内において、各項目が緊密に関連していると捉えられる。

表 3.3.1 日本国イメージと日本人イメージの諸要素の相関

|         | 男性<br>「行動性」         | 男性<br>「人間性」       | 女性<br>「伝統性」         | 国民<br>好感度         | 男性に対する<br>行動意図    | 女性に対する<br>行動意図    |
|---------|---------------------|-------------------|---------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 国「脅威性」  | -.35***<br>n=1130   | .65***<br>n=1130  | -.39***<br>n=1126   | -.46***<br>n=1141 | -.38***<br>n=1138 | -.29***<br>n=1138 |
| 国「先進性」  | .59***<br>n=1130    | -.37***<br>n=1130 | .58***<br>n=1126    | .24***<br>n=1141  | .32***<br>n=1138  | .36***<br>n=1138  |
| 国「好感度」  | .31***<br>n=1131    | -.47***<br>n=1131 | .31***<br>n=1127    | .63***<br>n=1145  | .46***<br>n=1138  | .38***<br>n=1138  |
| 国「警戒度」  | -.06n. s.<br>n=1131 | .29***<br>n=1131  | -.04n. s.<br>n=1127 | -.28***<br>n=1145 | -.16***<br>n=1139 | -.12***<br>n=1139 |
| 国「模範度」  | .41***<br>n=1129    | -.23***<br>n=1129 | .43***<br>n=1125    | .22***<br>n=1143  | .29***<br>n=1136  | .30***<br>n=1136  |
| 国「親密志向」 | .29***<br>n=1126    | -.35***<br>n=1126 | .30***<br>n=1122    | .46***<br>n=1140  | .40***<br>n=1133  | .34***<br>n=1133  |
| 国「関心度」  | .31***<br>n=1129    | -.20***<br>n=1129 | .31***<br>n=1125    | .29***<br>n=1143  | .27***<br>n=1136  | .26***<br>n=1136  |
| 短期滞在志望  | .44***<br>n=1127    | -.33***<br>n=1127 | .47***<br>n=1123    | .42***<br>n=1136  | .69***<br>n=1143  | .74***<br>n=1143  |
| 永住する志望  | .22***<br>n=1127    | -.38***<br>n=1127 | .27***<br>n=1123    | .42***<br>n=1136  | .53***<br>n=1143  | .47***<br>n=1143  |

※数値はPearsonの相関係数である。

※\*\*\*  $p < .001$ , n. s.

#### 4. 日本イメージの形成に影響を与える意識面の要素

前述の2章と3章では日本国イメージ及び日本人イメージに関する構造モデルを検討した。中国人の日本国・日本人に対するイメージは、基本的に日本の国と国民自体に対する「認知」や「評価」、「感情」、「行動意図」に基づくものであると考えられるが、意識面においては他のどのような要素に影響されるだろう。本章は日本と中国間の重要な出来事、また中国人の自己認識の二つの側面から考察を行う。

##### 4.1 日中間の重大事件及び日中関係が日本イメージに与える影響

中国人はと日中間の具体的な出来事についてどのように認知・評価しているか、調査は「1. 教科書問題」、「2. 靖国神社参拝問題」、「3. 従軍慰安婦の賠償問題」、「4. 日本政府の戦争に対する謝罪」、「5. 領土問題」、「6. 日本政府の安保理常任理事国加入の主張（以下は「安保理常任加入」と略称する）」、「7. 中国冷凍餃子中毒事件の日本側の処理（以下は「餃子事件）」、「8. 日本の対中 ODA 援助」、「9. 2008 年四川大地震の時日本緊急救援隊の派遣（以下は「四川救援隊）」、「10. 3・11 東日本大地震後日本政府の復興政策（以下は「3.11 復興政策）」という 10 項目を取り上げて質問した。事項の存在を認知している回答者に対しては更に「1. 強く批判する～5. 非常に評価する」の 5 件法で、当該項目に対する評価を尋ねた。単純集計の結果は図 4.1.1 の通りである。

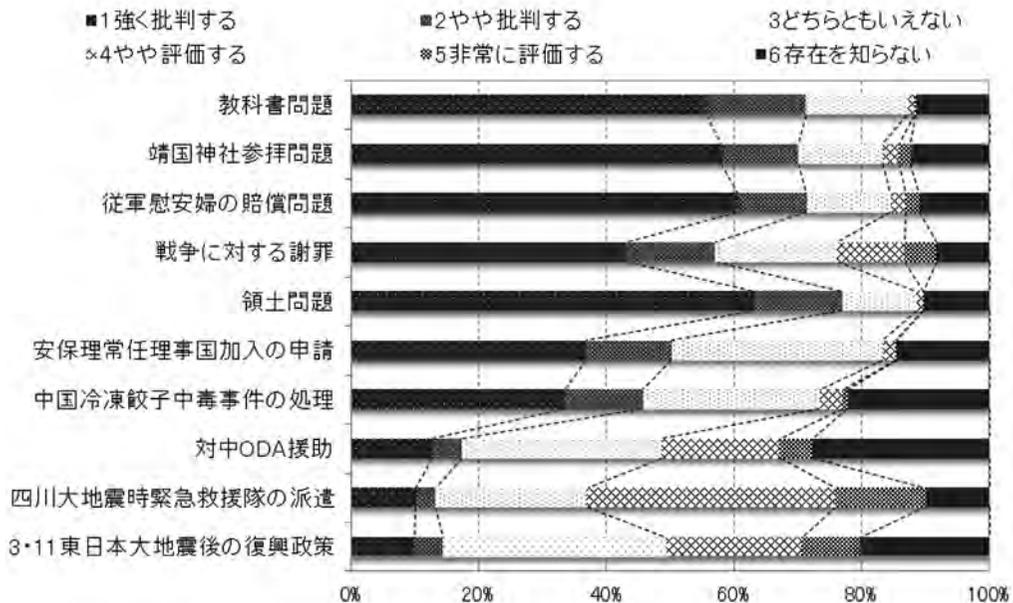


図 4.1.1 日中間の重大事件に対する認知・評価 (n=1134)

事項に対する認知度からみれば、「対中 ODA 援助」（認知度 72.8%）と「餃子事件」（認

知度 78.2%)、「3・11 復興政策」(認知度 80.1%) の 3 つの項目はほかの項目と比べて認知度が低いことがわかった。認知度が一番高い項目は「戦争に対する謝罪」(91.8%)、次いで「四川救援隊」(90.3%)と「領土問題」(90.0%)については 9 割以上の回答者が認知している。事項に対する評価をみれば、回答者が最も批判的に評価している項目は「領土問題」であり、「強く批判する」と「やや批判する」を答えた回答者は当該事項を認知している回答者全体の 88.4%を占めている。「教科書問題」(80.5%)と「靖国神社参拝問題」(80.0%)、「慰安婦問題」(80.0%)についても同様な傾向がみられ、批判者は認知者の 8 割に達している。したがって、この 3 項目の平均点を算出して「歴史問題」という新しい変数を作成し、本稿の以下の分析に用いた(クロンバックの  $\alpha$  信頼性係数は 0.82 となる)。それに対して、賞賛の意見が批判の意見を上回ったのは「四川救援隊」と「3・11 復興政策」、「対中 ODA 援助」この 3 項目であり、認知者全体における賞賛者の割合はそれぞれ 59.0%、38.0%、32.6%となる。一方、中国との関係については、非常に関係が悪い(1 点)～非常に関係が良い(5 点)のように 5 件法で回答者に評価してもらった。日中関係に対する評価得点は 2.54(標準偏差 0.86)で 8 カ国中では第 7 位となり、非常に厳しく評価されているとみられる<sup>16</sup>。

では、日中間の重要な出来事及び日中関係に対する認知・評価は日本イメージにどのような影響を与えているのか、本研究は重回帰分析を用いてこの問題を検証した。日中間の重大事件の諸項目について、各変数における非認知サンプルを欠損値として処理し、5 件法で尋ねた評価得点を用いた。表 4.1.1 に示しているように、全体として、「3.11 東日本大震災後の復興政策」と「日中関係」この二つの項目に対する評価は他の項目と比べ、日本イメージの形成に与える影響が顕著である。「対中 ODA 援助」と日本で大きく報道された「餃子事件」は今回の調査では、中国人の抱く日本イメージに与える影響が非常に限られているようにみえる。項目別にみれば、日本の「脅威性」に対する認知・評価は過去の「歴史問題」より、今現在でも解決策が見つからず、懸案となる「領土問題」と「安保理常任理事国加入」の 2 項目に大きく寄与されている。標準偏回帰係数が負になっているのは、「領土問題」を例にして解釈すれば、日中間の「領土問題」を賞賛する人ほど、日本の脅威性に対する認知・評価が低くなる、言い換えれば、「領土問題」を批判する人ほど、日本が脅威であると認知・評価する傾向がある。それに対して、「四川地震日本救援隊の派遣」と「3・11 地震後の復興政策」に対する賞賛は日本の「先進性」や日本人男性と女性に対するポジティブな評価につながっており、更に日本への短期滞在の意欲を高める傾向がみ

<sup>16</sup> その他の 7 カ国の平均得点はロシア 3.48(標準偏差 0.80)、北朝鮮 3.35(標準偏差 0.79)、韓国 3.09(標準偏差 0.81)、アメリカ 2.94(標準偏差 0.81)、インド 2.88(標準偏差 0.78)、ベトナム 2.70(標準偏差 0.86)、フィリピン 2.40(標準偏差 0.98)である (F(5.00, 5707.03)=351.84, p<.001)。最下位のフィリピンについては、実は今年 4 月に起きた南シナ海の領有権をめぐる中国とフィリピンの衝突が中国で大いに報道され、今回の調査結果に影響を与えていると考えられる。

られる。しかし、日本で長期居住する意欲に関しては、日中間の歴史問題や領土問題からのネガティブな影響が浮かび上がってくるとみられる。

表 4.1.1 日中間の重大事件及び日中関係に対する評価と日本イメージの関連性

|        | 歴史問題    | 領土問題    | 安保理加入   | 毒餃子事件   | 対中ODA | 四川地震救援 | 3・11復興政策 | 日中関係    | R <sup>2</sup> |
|--------|---------|---------|---------|---------|-------|--------|----------|---------|----------------|
| 認知・評価  | 国「脅威性」  | -       | -.13*** | -.14*** | -     | -      | -        | -.37*** | .24***         |
|        | 国「先進性」  | -       | -.07*   | -       | -     | .15**  | .22***   | .13***  | .14***         |
|        | 男性「行動性」 | -       | -.12**  | .16***  | -     | .16**  | .24***   | .16***  | .23***         |
|        | 男性「人間性」 | -.13*** | -       | -       | -     | -      | -.20***  | -.35*** | .22***         |
|        | 女性「伝統性」 | -.10*   | -       | .12*    | -     | -      | .17***   | .18***  | .20***         |
| 感情     | 国好感度    | -       | .25***  | -       | -     | -      | -        | .36***  | .25***         |
|        | 国民好感度   | -       | -       | .20***  | -     | -      | .14***   | .29***  | .20***         |
| 行動意図   | 国「警戒度」  | -.09**  | -.16*** | -       | -     | -      | -        | -.29*** | .17***         |
|        | 国「模範度」  | -       | -.22*** | -       | .12** | -      | .11*     | .13**   | .13***         |
|        | 国「親密志向」 | -       | -       | -       | -     | -      | .17***   | .44***  | .24***         |
|        | 国「関心度」  | -       | -       | -       | -     | -      | .20***   | .11***  | .06***         |
|        | 国「短期滞在」 | -       | -       | .07*    | -     | -      | .23***   | .13**   | .15***         |
|        | 国「永住する」 | .13**   | .12**   | -       | -.09* | -      | -        | .17***  | .23***         |
|        | 男性行動意図  | -       | -       | .17***  | -     | -      | .16**    | .18***  | .26***         |
| 女性行動意図 | -       | -       | .13***  | -       | -     | .22*** | .15**    | .19***  |                |

※数値は標準偏回帰係数である。統計的に有意な数値のみ表示した。

※\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05.

これらの諸事項の中、日中関係に対する評価が果たす役割は際立っていると捉える。両国関係は両国間の一時的な出来事の発生によって変動が多く、国自体に対する評価と比べて変わりやすいものであると捉えられ、従って、日本イメージの形成においては大きな不安定な要素になると考えられる。この意味で、現在中国人の日本に対する「好感度」の低さは、目下日中関係が冷ややかである現状と切り離せないと理解してよかろう。但し、今回の調査は日中間の出来事を10項目取り上げたが、中国人の日本認知・評価を行う際の根拠としてはかなり限定的であると自覚している。

#### 4.2 中国人の自己評価が日本イメージに与える影響

中国人の自己及び自国中国に対する評価を測るために、本研究は「愛国心」と「国際志向」、「自国評価」、「生活満足度」という4つの尺度を作成して5件法で質問した。各尺度の具体的質問項目と各項目の平均得点は以下の通りである。

| 【愛国心】尺度                                     | 平均値  | 標準偏差 | n    |
|---|------|------|------|
| 1). 個人利益が国家民族の利益に矛盾が生じるとき、国家民族の利益を優先すべきである。 | 3.79 | 0.94 | 1151 |
| 2). 私は中国のために自分の力を貢献したい。                     | 4.01 | 0.85 | 1151 |
| 3). 私は中国を愛している。                             | 4.18 | 0.83 | 1150 |
| 4). 中国人は他の民族より優れている。                        | 3.53 | 1.00 | 1151 |
| 5). 必要があるとき、私は祖国のために自分を犠牲してもいい。             | 3.46 | 1.03 | 1151 |
| 6). 私は中国人であることを誇りに思う。                       | 3.91 | 0.96 | 1151 |

※尺度: 全くそう思わない(1点)～非常にそう思う(5点)  
 ※玄(2006)、辻村・古畑・鮑戸ほか(1987)を参考にして作成した。

| 【国際志向】尺度                                     | 平均値  | 標準偏差 | n    |
|--|------|------|------|
| 1). 機会があれば、海外で仕事や勉強をしたい。                     | 3.21 | 1.26 | 1150 |
| 2). 多くの外国の人と接触したい。                           | 3.26 | 1.16 | 1150 |
| 3). 多くの外国のことを知りたい。                           | 3.60 | 1.03 | 1149 |
| 4). 発展途上国の人々に対する支援活動を参加したい。                  | 3.37 | 1.04 | 1150 |
| 5). 時には国際社会全体の利益のために、自国の利益を犠牲するのも当たり前なことである。 | 2.59 | 1.15 | 1150 |

※尺度: 全くそう思わない(1点)～非常にそう思う(5点)  
 ※荻原(2007)を参考にして作成した。

| 【自国評価】尺度                    | 平均値  | 標準偏差 | n    |
|-----------------------------|------|------|------|
| 1). 中国は他の国を見習うべきところがたくさんある。 | 4.13 | 0.83 | 1151 |
| 2). 中国は国際社会で高く評価されている。      | 3.50 | 0.92 | 1150 |
| 3). 中国政府は十分に機能している。         | 3.35 | 1.01 | 1150 |
| 4). 中国の政治体制に改善すべきところがある。    | 4.10 | 0.82 | 1150 |
| 5). 中国は今後も高度経済成長を続ける。       | 3.63 | 0.87 | 1150 |
| 6). 中国は現在社会問題が深刻である。        | 4.04 | 0.89 | 1150 |
| 7). 中国には十分な言論の自由がある。        | 3.11 | 1.10 | 1150 |

※尺度: 全くそう思わない(1点)～非常にそう思う(5点)  
 ※辻村・古畑・鮑戸(1987)を参考にして作成した。

| 【生活満足度】尺度 | 平均値  | 標準偏差 | n    |
|-----------|------|------|------|
| 1). 居住状況  | 3.22 | 1.10 | 1151 |
| 2). 収入状況  | 2.73 | 1.06 | 1151 |
| 3). 仕事・勉強 | 3.10 | 0.99 | 1150 |
| 4). 食品安全  | 2.24 | 1.03 | 1150 |
| 5). 人身安全  | 3.25 | 1.00 | 1150 |
| 6). 衛生環境  | 2.81 | 1.08 | 1151 |
| 7). 社会福祉  | 2.62 | 1.03 | 1150 |
| 8). 社会公平性 | 2.51 | 1.04 | 1151 |
| 9). 社会安定性 | 3.06 | 1.02 | 1150 |

※尺度: 全く満足していない(1点)～非常に満足している(5点)  
 ※OECD「より良い暮らし指標(Your Better Life Index)2012」を参考にして作成した。

以上の4尺度の各項目の評価得点を加算し平均値を求め、それぞれ「愛国心」と「国際志向」、「自国評価」、「生活満足度」変数として以下の分析に用いた。その内、「自国評価得点」の計算にあたり、項目「1). 中国は他の国を見習うべきところがたくさんある」と「4). 中国の政治体制に改善すべきところがある」、「6). 中国は現在社会問題が深刻である」の得点を反転した。このように作成した4変数の信頼性について、クロンバックの $\alpha$ 係数を求めて確認した<sup>17</sup> (表 4.2.1)。この中国国民の自己評価に関する4変数の相関関係は表 2.1の通りである。欠損値をペアごとに除外するように処理した。

表4.2.1 「愛国心」「国際志向」「自国評価」「生活満足度」尺度間の相関

|          | 平均値  | 標準偏差 | クロンバック<br>の $\alpha$ 係数 | 1.               | 2.                  | 3.               | 4. |
|----------|------|------|-------------------------|------------------|---------------------|------------------|----|
| 1. 愛国心   | 3.81 | 0.72 | 0.86                    | -                |                     |                  |    |
| 2. 国際志向  | 3.20 | 0.82 | 0.77                    | .17***<br>n=1150 | -                   |                  |    |
| 3. 自国評価  | 2.76 | 0.50 | 0.69                    | .33***<br>n=1151 | -.06n. s.<br>n=1150 | -                |    |
| 4. 生活満足度 | 2.82 | 0.75 | 0.89                    | .30***<br>n=1150 | .08**<br>n=1149     | .41***<br>n=1150 | -  |

※数値はPearsonの相関係数である。

※\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, n. s.

次いで、中国人の自己評価の4項目と日本イメージの関連性を表 4.2.2 に示している。こちらは日本イメージの各項目を従属変数にし、自己評価の各項目を独立変数にして重回帰分析を行った結果である。決定係数 $R^2$ からみれば、自己評価の各項目は日本イメージの形成に影響を与えているものの、全体として限定的な役割を果たしていると捉えられる。その中に特に注目したいのは「愛国心」という変数である。何故ならというと、中国人の「愛国」＝「反日」という見方を持つ人が日本社会に少なからず存在する。しかし今回の調査結果を見る限りでは、中国人の「愛国心」は日本のすべてを排斥しようとする盲目で狭隘な民族主義ではないと捉えられる。具体的にいえば、「愛国心」は日本の「脅威性」(.21, p<.001)に対する認知・評価との間に正の関連が見られたが、日本の「先進性」(.14, p<.001)に対する賞賛にも寄与しているようにみえる。同様に、「愛国心」が日本に対する警戒(.28, p<.001)を招く一方で、日本を見習う対象にする志望(.16, p<.001)を向上させている。確かに「愛国心」と日本・日本人に対する「好感度」(-.18, p<.001; -.10, p<.01)

<sup>17</sup>  $\alpha$ 係数は通常0.8以上が望まれるが、「国際志向」(0.77)と「自国評価」(0.69)2尺度の $\alpha$ 係数はやや低い数値となっている。これは「国際志向」尺度において項目5)が他の項目との相関が低かった、また「自国評価」尺度において項目1)と4)、6)が他の項目との間に負の相関となっていることが原因であると考えられる。この結果は回答者の「国際志向」と「自国評価」の実態であると考え、本稿はこの4尺度を採用して以下の分析に用いた。

との間に負の関連があることは否めないが、日本の国民に対する行動意図の形成においては「愛国心」の影響がみられなかった。これは非常に興味深い結果であり、中国人の「愛国心」を短絡に「反日」と帰結する見方の不適切さを示唆しているのではないかと考えられる。一方、「自国評価」は有意な関連性が見られた項目との間に全て負の関係が示されている。中国に対する評価が高い人は日本国の「先進性」及び日本人男性の「行動性」、女性の「伝統性」を低く認知・評価し、「行動意図」要素における「模範度」や「短期滞在志望」、また日本人に対する行動意図が低くみえる。但し、このような人たちの日本国に対する脅威な認知・評価、それに「関心度」と「警戒度」も低いことからみれば、自国に対する高評価は単に相手に対するイメージにネガティブな影響を与えているとはいえないだろう。

表 4.2.2 中国人の自己評価と日本イメージの関連性

|       |         | 愛国心     | 国際志向    | 自国評価    | 生活満足度 | R <sup>2</sup> |
|-------|---------|---------|---------|---------|-------|----------------|
| 認知・評価 | 国「脅威性」  | .21***  | -.20**  | -.09**  | -.08* | .07***         |
|       | 国「先進性」  | .14***  | -       | -.30*** | .07*  | .07***         |
|       | 男性「行動性」 | .17***  | -       | -.24*** | -     | .06***         |
|       | 男性「人間性」 | .07*    | -.12*** | -       | -.07* | .07**          |
|       | 女性「伝統性」 | .19***  | .08**   | -.21*** | -     | .07***         |
| 感情    | 国好感度    | -.18*** | .24***  | -       | .08** | .08***         |
|       | 国民好感度   | -.10**  | .16***  | -       | -     | .03***         |
| 行動意図  | 国「警戒度」  | .28***  | -.08**  | -.19*** | -.07* | .08***         |
|       | 国「模範度」  | .16***  | .10**   | -.26*** | -     | .09***         |
|       | 国「親密志向」 | -       | .09**   | -       | -     | .01**          |
|       | 国「関心度」  | .14***  | .13***  | -.18*** | -     | .06***         |
|       | 国「短期滞在」 | -       | .18***  | -.19*** | -     | .07***         |
|       | 国「永住する」 | -.16*** | .22***  | -       | -     | .15***         |
|       | 男性行動意図  | -       | .16***  | -.13*** | .08** | .04***         |
|       | 女性行動意図  | -       | .13***  | -.21*** | .09** | .06***         |

※数値は標準偏回帰係数である。

※\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, n. s.

## 5. まとめと今後の課題

以上、本研究は2012年5月～6月の間に筆者が実施した中国全国調査の結果に基づいて現代中国人が抱く日本に対するイメージの実態またその構造を検討した。イメージ研究の「認知・評価・感情・行動意図」4成分理論及び態度研究の諸理論に基づき、中国人の日本に対する「認知・評価」(SD法による測定)、「感情」(「好感度」の測定)、「行動意図」(「警戒度」や「模範度」、「親密志向」、「関心度」、及び日本に対する社会的距離の測定)、これらの要素の日本イメージの全体構造における相互関係及び位置づけを明らかにするために、本研究は共分散構造分析を行い、イメージの構造化を試みた。結果として、中国人が日本に対して行動を行う際に、感情要素に左右される部分があることは否めないが、日本に対する認知・評価に基づいて判断する可能性も高く認められ、すなわち日本イメージの構造における「理性」的な部分の存在が示唆されている。現在数多くの世論調査が「好感度」を中国人の日本イメージの測定指標として使用しているが、本研究の考察結果から見れば、それは非常に不十分であるといわざるを得ない。

それに、本研究は日本の国と国民を区別し、日本人の男性と女性を区別して、それぞれに対するイメージを考察した。中国人の日本国に対する認知・評価においては「脅威性」と「先進性」2因子が同居して二次元構造となっている。日本人男性に対する認知・評価についても同様な傾向がみられ、「行動性」に対するポジティブな認知・評価と「人間性」に対するネガティブな認知・評価という二つの側面からなっている。これに対して、日本人女性に対する認知・評価は比較的単純な一次元構造となり、日本人男性よりポジティブにイメージされていることがわかった。全体として中国人が日本人女性に対する賞賛と寛容が際立っており、非常に興味深い結果が得られたといえる。この日本国と日本人に対するイメージは異なる特徴を示している一方で、「認知」や「評価」、「感情」、「行動意図」の各要素において互いに強く関連していることも明らかとなった。

また、日本イメージの形成において、日本の国・国民自体に対する認知・評価要素のほかに、日中間の重要な出来事や中国人の自己評価も一定の影響を与えていることは、本研究で行った重回帰分析の結果に検証されている。総じて言えば、日本イメージは日中関係に対する評価にも大きく左右されているように見える。その中、「愛国心」が日本に対する警戒を強めている一方、日本を見習おうとする志向また日本に対する関心度とも高めていることが明らかになった。このような「愛国心」は従来排外的な民族主義と異なる存在であり、今後更なる注目が必要と考える。

今回の研究は、数多くの変数を扱ってイメージの構造モデルの構築を試みたが、経験不足もあり、紙面の関係もあるため不十分なところがあることは否めない。今後の課題として、まずイメージ構造モデルの改良が必要であると考えられる。これは本稿で扱っていない学生調査の結果と一般サンプルの結果との比較、及び日本イメージと他国イメージの国際比

較によって実現したい。それに、本研究は日本イメージの構造に注目したが、このようなイメージがどのように形成されているか、すなわち、イメージの形成されるプロセスに影響を与える要素に対する考察も重要な課題である。特に個人のデモグラフィック属性（例えば性別や年齢、学歴、地域など）や情報源（例えばメディアの利用や学校教育、接触経験など）などの要素の影響について実証的な研究によって明らかにしたい。

## 参考文献

榎博文（2004）「態度と態度変容」青池慎一・榎博文（編）『現代社会心理学—心理・行動・社会』，慶応義塾大学出版社。

飽戸弘・原由美子（2000）「相手国イメージはどう形成されているか—日本・韓国・中国世論調査から（その2）」『放送研究と調査』8月号，56-93。

石井健一（2008）「中国人の反日意識—中国ナショナリズムの社会心理学的分析」伊藤陽一・河野武司（編）『ニュース報道と市民の対外国意識』，慶応義塾大学出版社

応雄（2000）「中国映画中の日本人像」『饕餮』第8号，153-172。

荻原滋（2007）「大学生のメディア利用と外国認識—首都圏13大学での調査結果の報告」『メディア・コミュニケーション』No. 57，5-33。

玄大松（2006）『領土ナショナリズムの誕生—独島/竹島問題の政治学』，ミネルヴァ書房。

言論NPO（2005）『第1回北京—東京フォーラム報告書 2005年北京』，言論NPO。

言論NPO（2006）『第2回東京—北京フォーラム報告書 2006年東京』，言論NPO。

言論NPO（2007）『第3回北京—東京フォーラム報告書 2007年北京』，言論NPO。

言論NPO（2008）『第4回東京—北京フォーラム報告書 2008年東京』，言論NPO。

言論NPO（2009）『第5回北京—東京フォーラム報告書 2009年大連』，言論NPO。

言論NPO（2010）『第6回東京—北京フォーラム報告書 2010年東京』，言論NPO。

言論NPO（2011）『第7回北京—東京フォーラム報告書 2011年北京』，言論NPO。

言論NPO（2012）『第8回東京—北京フォーラム報告書 2012年東京』，言論NPO。

工藤泰志（編）（2008）『中国人の日本人観 日本人の中国人観』，言論NPO。

辻村明・古畑和孝・飽戸弘（編）（1987）「世界は日本をどう見ているか—対日イメージの研究」，日本評論社。

御堂岡潔（1992）「文化集団のイメージ：マス・レベルにおける文化理解」大坊郁夫・安藤清志・池田謙一（編）『社会心理学パースペクティブ—3集団から社会へ』，誠信書房。

原由美子・塩田雄大（2000）「相手国イメージとメディア—日本・韓国・中国世論調査から」『放送研究と調査』3月号，2-23。

李洋陽（2007）「中国人の日本人イメージとその形成要因」，東京大学文学部大学院人文社

会系研究科博士論文.

Allport, G. W. (1935) Attitude, In Murchison (Ed.), Handbook of social psychology, Clark Univ. Press.

Bogardus, E. S. (1925) Measuring social distance, *Journal of Applied Sociology*, 9, 299-308.

Kelman, H. C. (1965) *International behavior: A social psychological approach*, Holt Rinehart.

Krech, D., Crutchfield, R. S., Ballachey, E. L. (1962) *Individual in society*, McGraw-Hill.

OECD 「Create Your Better Life Index) 2012」 (<http://www.oecdbetterlifeindex.org/>)

## 『東京大学大学院情報学環 情報学研究 調査研究編』 投稿規定

- (1) 東京大学大学院情報学環教員等（教授、准教授、助教、客員教授・准教授、研究員等）は、論文を日本語または英語で執筆することができる。
- (2) 東京大学大学院学際情報学府博士課程在籍者および東京大学大学院人文社会系研究科博士課程在籍者で大学院情報学環教員を指導教員としている者は、論文を日本語または英語で投稿することができる。大学院博士課程学生の投稿論文の採否は、図書・出版委員会が指名した情報学環教員と外部の委託された研究者による査読を経て、図書・出版委員会において決定される。
- (3) 執筆及び投稿される論文は未刊行のものに限る。定期刊行物（学術雑誌、商業雑誌、大学・研究所紀要など）や単行本として既刊、あるいは、これらに投稿中の論文は本誌に投稿できない。但し、学会発表抄録や科研費などの研究報告書はその限りではない。
- (4) 論文内容は、学際情報学にかかわり、調査や実験を基にした実証的研究（定量的、定性的のいずれも可）もしくはデザイン・表現系研究とする。
- (5) 投稿する者は、執筆要項の諸規定にそって作成した原稿のプリントアウトしたもの 1部およびそのデータファイルを電子媒体の形で東京大学大学院情報学環図書室に提出する。大学院生博士課程在籍者は提出の際、指導教員名と投稿者の連絡先（メールアドレス、電話番号）を明示することとする。
- (6) 本紀要に掲載された論文は、大学院情報学環のホームページで公開される。

## 『東京大学大学院情報学環 情報学研究 調査研究編』 執筆要項

### 1. 原稿の分量

大学院生による投稿は原則として本文 A4 版で打ち出し 30 頁以内、教員は A4 で本文 50 頁以内（いずれも図、注、引用・参考文献等含む）。

### 2. 原稿の形式

#### (1) ページ設定

A4用紙、横書き、横40字(80マス)×34行

余白 上25cm 下30cm 横23cm、23cm

#### (2) フォント・字のサイズ

章・節・項タイトル：MSゴシック(10.5p)

|           |                             |
|-----------|-----------------------------|
| 本文        | : MS明朝 (10.5p)              |
| 図表番号・タイトル | : MSゴシック (10.5p)            |
| 図表中の文字    | : MS明朝またはMSゴシック (文字の大きさは任意) |
| 注釈        | : MS明朝 (9p)                 |
| 図表注釈      | : MS明朝 (9p)                 |
| 引用・参考文献   | : MS明朝 (10.5p)              |
| 強調箇所      | : ボールド(強調太字)                |

(3) その他の形式

- ・原則として、原稿はWord、一太郎またはPDFファイルで作成する
- ・頁数はいれない
- ・章毎に頁をかえる

### 3. 句読点

本文の句点は全角「。」を、読点は全角「、」を用いる。

### 4. ノンブル・スタイル

(1) 本文に章・節の番号等を付け、その後に章・節等のタイトルを付ける。

(2) 章の記述方法

1. ××× (通常全角、左揃えで記述)

章タイトルの後は改行し、1行あける。

(3) 節の記述方法

1.1 …… 1.2 …… 1.3 …… (半角数字、左揃えで記述)

節タイトルの後は改行する(行はあけない)。

(4) 節より下の区切りの記述方法

節より下の区切りは、適宜(1)(2)……、a) b)……、等と番号等を付ける。

タイトルの後は改行する(行はあけない)。

### 5. 図表

(1) 図表は表計算ソフト等 (EXCEL等) で作成したものを本文に組み込む。

(2) 原則として、表と本文の間は前後それぞれ1行あける。

(3) 図は白黒印刷用でわかりやすく表示されるようパターン等を調整する (色分けしない)。

※図、写真等で、色刷りする必要がある場合には、個々のケースに応じて図書出版委員会と相談のこと。

(4) 図表番号・タイトルの記述方法

(a) 表の記述方法

- ・表の**上部**に表番号、表タイトルを付記する
- ・表にはそれぞれ**節単位**で通し番号を付す（例：表1.2.1・・・）
- ・表番号は例えば 表3.2.1 …………… とする  
（数字は半角。最初の3は章、次の2は節、最後の1は節内での表の記載順序）

(b) 図の記述方法

- ・図の**下部**に図番号、図タイトルを付記する
- ・図にはそれぞれ**節単位**で通し番号を付す。図番号の付け方は表に準ずる。  
（例：図2.3.1・・・）

## 6. 注

原則的に「章末注釈」は入れない。どうしても入れる必要があれば、頁下注釈で処理する。

## 7. 引用・参考文献、本文および注での引用

(1) 本文・注での引用方法は以下の例にならい、著者の姓・発表年を書く

- ・例1 Green(1992)によれば、…
- ・例2 …であろう（岩本，2000a）。

(2) 引用・参考文献等の記述

- ・本文中の引用・参考文献を著者名のabc順で一括して並べ、論文の末尾に記載する。
- ・同一の著者の場合は、発行年の古いものから順に並べる。
- ・論文名には「」を、書名には『』を付す
- ・文献の著者はファミリーネーム，ファーストネームの順で示す。
- ・形式： 著者(発表年) 論文名, 著書名, 出版者, 掲載頁.
- ・欧文の書名，雑誌名はイタリック体（斜体）で表記する。

(3) 引用・参考文献の記入例

(a) 日本語文献

三浦×子・川浦○至（2008）「人はなぜ知識共有コミュニティに参加するのか：質問行動と回答行動の分析」『社会心理学研究』 23(3), 233-245.

(b) 翻訳書

Shannon, C. E. and Weaver, W. (1949 = 1969) *The Mathematical Theory of Communication*, The University Illinois Press. (長谷川△・井上○洋訳『コミュニケーションの数学的理論』明治図書)

(c) 欧文文献

Mccombs, M. E. and Shaw, D. L. (1972) The Agenda-setting function of mass media.  
*Public Opinion Quarterly*, 36, 176-187.

## 8. 英文要旨

下記の形で英文要旨を付すのが望ましい。

- (1) A4版で1～2頁とする。英文に関しては、特に記述に注意し、執筆者の責任において英語を母語とする人の校閲を経ること。
- (2) 英文要旨のキーワードは、要旨のあとに「**Key Words:**」(ゴシック体)に続けて記す。キーワードの数は6つ前後とし、原則として日本語キーワードに対応するようにする。キーワードの筆頭語および主要語の頭文字は大文字とする。各キーワードはコンマで区切り、最後のキーワードの末尾にピリオドを付ける。

## 9. その他

- (1) 論文には、日本語の標題(主題のヘッダを刊行物に付すため30字以内とする)を付け、その下に英語標題を付ける。副題がある場合は、「-」(ハイフン)の後に主題と明確に区別する形で記載し、副題の下に主題と副題両方の英訳(英語の主題と副題は「:」で区切る)をまとめて付す。英語標題は、筆頭語と主要語の頭文字を大文字で表記すること(表紙の日本語標題はMSゴシック 12ポイント)。
- (2) 目次は、原則として各論文毎につける(既刊号参照)。キーワード、執筆者の表記、執筆者の所属等も既刊号に準ずる。
- (3) 教員による提出の場合、原則的に校正は行わず写真製版で提出原稿をそのまま取り扱う。したがって、必ず執筆者本人、共同執筆の場合は第一執筆者か編集の責任を負う者が提出原稿全体にわたる校閲を行ってから図書室に提出しなければならない。大学院生の投稿の場合は、採用が決定した後、図書・出版委員会の指示に従って遅滞なく写真製版に用いる完全な原稿を提出しなければならない。
- (4) 別刷は個人論文の場合30部まで無料とする。それ以上は全額執筆者負担とする。共同論文の場合は、全体50部の人数割までが無料となる。

※上記で曖昧なところ等あれば、過去の紀要の体裁を参照。

附則 この規定・要項は、平成12年3月1日から施行する。

附則 この規定・要項は、平成14年12月19日から施行する。

附則 この規定・要項は、平成15年6月20日から施行する。

附則 この規定・要項は、平成 22 年 5 月 28 日から施行する。

附則 この規定・要項は、平成 24 年 12 月 21 日から施行する。

東京大学大学院情報学環 図書・出版委員会

情報学研究（調査研究編）No.29

---

発行所 東京大学大学院情報学環  
印刷 平成25年 3月27日  
発行 平成25年 3月27日  
印刷所 株式会社創志企画

---